

スマートコントロール

# インストール／操作ガイド

Ver2.1.12

20200330

株式会社アルパニクス



## 目次

必ずお読みください.....	6
1 インストールについて .....	6
2 スマートコントロールを操作する際の Windows のアカウントについて .....	6
3 電源オプションについて.....	6
4 インストール時のライセンス認証について .....	6
5 ドメインコントローラの設定について.....	6
6 ドライブシールド SS との接続条件に関して.....	7
7 Windows 8 以降の OS へのインストールについて .....	7
8 マックシールドとの接続に関して .....	8
始めに .....	9
1 スマートコントロールとは.....	9
2 動作環境.....	9
3 主なコントロール内容一覧.....	9
インストール方法.....	10
1 スマートコントロールのインストール方法.....	10
2 手動認証について.....	15
起動方法と画面の説明 .....	19
1 起動方法 .....	19
2 画面の説明.....	19
3 ライセンス情報の確認.....	20
4 画面のカスタマイズ .....	21
グループ分けの方法.....	23
1 新規グループを作成する方法 .....	23
2 サブグループを作成する方法.....	23
3 クライアントをグループに登録する方法.....	24
4 グループフィルターに登録する方法 .....	24
5 グループを削除する方法 .....	25
6 クライアントをグループから除外する方法.....	25

基本操作 .....	26
1 コントロールの対象とするクライアントの選択方法 .....	26
1-1 全てのクライアントを選択する方法 .....	26
1-2 グループ内の全てのクライアントを選択する方法 .....	26
1-3 任意の複数のクライアントを選択する方法 .....	26
2 プロテクト／プロテクト解除モードについて .....	27
2-1 プロテクトモードにする方法 .....	27
2-2 プロテクト解除モードにする方法 .....	27
3 USB ブロッキングについて .....	28
3-1 USB ブロッキングをオン .....	28
3-2 USB ブロッキングをオフ .....	29
4 キーボードとマウスのロックについて .....	30
4-1 キーボードとマウスをロック(使用不可)する .....	30
4-2 キーボードとマウスをロック解除(使用可能)する .....	31
4-3 キーボードとマウスのロック解除キーの変更 .....	31
5 Firewire のロックについて .....	32
5-1 Firewire をロック解除(使用可能)する .....	32
5-2 Firewire をロック(使用不可)する .....	32
6 ステルスモードについて .....	33
6-1 ステルスモードをオン .....	33
6-2 ステルスモードをオフ .....	33
7 電源管理について .....	34
7-1 再起動の方法 .....	34
7-2 指定した時間後に再起動する方法 .....	34
7-3 シャットダウンの方法 .....	35
7-4 指定した時間後にシャットダウンする方法 .....	36
7-5 起動の方法 .....	37
7-6 再起動する時間を設定する .....	38
8 パスワードについて .....	39
8-1 パスワードの変更 .....	39
8-2 機能毎にパスワードを設定する .....	40
8-3 パスワード一括入力設定 .....	41
その他の操作・設定 .....	42
1 ドライブにあるフォルダをプロテクトから除外する (ODP) .....	42
2 印刷の制限機能 .....	43
2-1 印刷を無効にする .....	43
2-2 印刷を有効にする .....	44

3	アプリケーションの禁止設定.....	45
4	スマートコントロールの変更について.....	46
5	リモート実行について.....	48
6	クライアントのプロパティ.....	48
7	クライアントのログオフを再起動に変更する.....	49
8	設定のインポート・エクスポートについて.....	49
9	Windows Update 連携機能について.....	51
10	WSUS/SUS 設定について.....	53
11	ファイル転送について.....	54
12	一時保存領域のサイズ変更.....	56
13	クライアントに単独認証用ライセンスキーを割り当てる.....	57
	<b>スケジューリング.....</b>	<b>58</b>
1-1	スケジュールの作成.....	58
1-2	スケジュールのカスタマイズ.....	66
	<b>ライセンス認証の解除.....</b>	<b>68</b>
	<b>アンインストール.....</b>	<b>68</b>
1	アンインストール方法.....	68
	<b>その他設定事項.....</b>	<b>70</b>
1	仮想化ソフトをご利用の場合.....	70
	<b>お問い合わせ先.....</b>	<b>71</b>

# 必ずお読みください

## 1 インストールについて

同一コンピュータに、ドライブシールド SS とスマートコントロールをインストールすることはできません。

**\*ドライブシールド SS のインストールを行う前に、スマートコントロールのインストールを先に行ってください。**

## 2 スマートコントロールを操作する際の Windows のアカウントについて

スマートコントロールを操作するためには、Windows の管理者権限のあるアカウントでログオンする必要があります。制限付きアカウントでは正常に動作しません。

## 3 電源オプションについて

スマートコントロールをご利用する際は、電源オプションの、スリープモード、ハイブリッドスリープ、休止状態を無効にしてください。

また、クライアント PC が Windows8 の環境において、スマートコントロールからクライアント PC に対しての電源起動 (Wake on LAN) を実行する際は、クライアント PC の高速スタートアップの設定を無効にしてください。

## 4 インストール時のライセンス認証について

インターネットを経由したライセンスの登録や追加の際に、インターネットに接続されていて、SSL プロトコルが利用可能である必要があります。

プロキシ環境をご利用の場合は、手動認証による手順を実施下さい。手動認証の手順については、2 手動認証について をご参照下さい。

## 5 ドメインコントローラの設定について

ドライブシールド SS をドメイン環境にてご利用の場合、ドメインコントローラにて以下の設定を行って下さい。

**【ドメインコントローラ: コンピュータアカウントのパスワードの変更を拒否する】ポリシーを【有効】に設定する。**

## 6 ドライブシールド SS との接続条件に関して

ドライブシールド SS は、スマートコントロールからの一括認証の場合、常にスマートコントロールとの接続を行った状態をご利用ください。

ドライブシールド SS とスマートコントロールが未接続の状態でも 270 日経過すると、ドライブシールド SS は起動して 1 時間後にライセンス認証が解除され、自動的に再起動を行いプロテクト解除モードで起動します。

ライセンス認証が解除された場合、再びスマートコントロールと接続しない限りプロテクトモードにすることができません。

ただし、270 日以上通信を行わなかった場合でも、起動後、ドライブシールド SS が 1 時間以内にスマートコントロールと通信を行えば認証が外れることはございません。

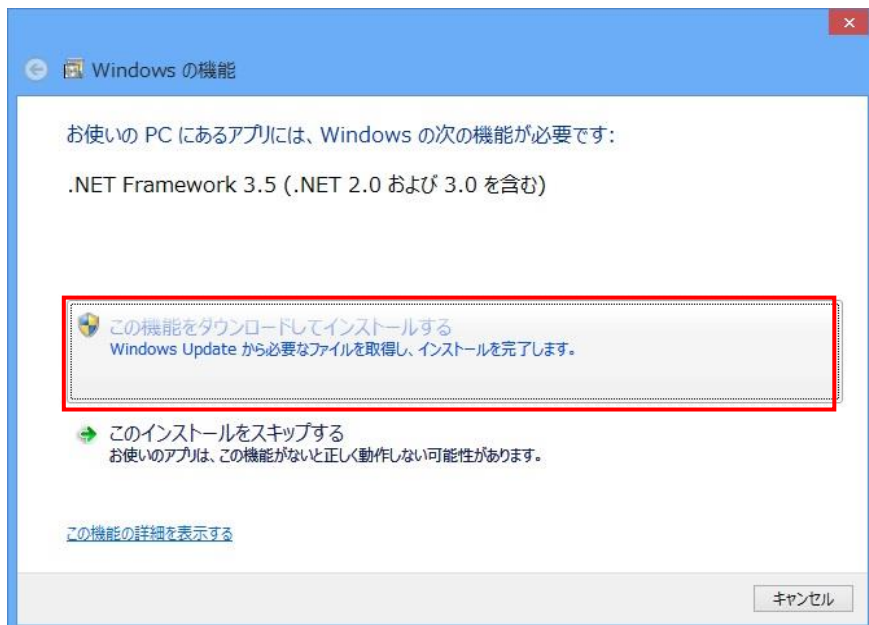
必ず、スマートコントロールを先に起動してから、ドライブシールド SS を起動し、接続を行うようにして下さい。

ドライブシールド SS を単独認証にてご利用の場合は、上記に該当しません。継続してのご利用が可能です。

## 7 Windows 8 以降の OS へのインストールについて

スマートコントロールをインストールする際は、事前に「.NET Framework 3.5」をインストールする必要があります。Windows 8 以降の OS の初期状態では、.NET Framework 3.5 は無効になっています。

スマートコントロールのインストーラを実行すると、以下のウィンドウが表示されます。



お使いの PC がオンライン接続されていることを確認し、「この機能をダウンロードしてインストールする」をクリックし、画面に従って.NET Framework 3.5(.Net 2.0 および 3.0 を含む)をインストールして下さい。

ご利用の環境がオフライン環境の場合は、OS のインストールメディアを使用して.NET Framework 3.5 のインストールが可能です。

1. OS のインストールメディアを挿入します。

2. コマンドプロンプトを管理者で実行し、以下を入力します。

```
Dism /online /enable-feature /featurename:NetFx3 /All /Source:x:¥sources¥sxs /LimitAccess
```

※ x:¥sources¥sxs はインストールメディアの場所を指定します。

3. 再起動後、.NET Framework 3.5 が有効になります。

Windows Server 2008 (R2), Server 2012(R2) にスマートコントロールをインストールする場合は、サーバermanagejaを起動し、[役割と機能の追加] から.Net Framework 3.5 をインストールしてください。

## 8 マックシールドとの接続に関して

スマートコントロールは、Mac OS 用環境復元ツール「マックシールド」をリモート管理することが可能です。マックシールド・クライアントに対して使用できる機能は、**ライセンスの管理、プロテクトの有効/解除、電源 OFF/再起動のみ**になります。

またマックシールドは、スマートコントロールからの一括認証の場合、常にスマートコントロールとの接続を行なった状態でご利用ください。

詳細についてはマックシールド付属の「インストール／操作ガイド」をご参照ください。



# 始めに

## 1 スマートコントロールとは

スマートコントロールは、PC 環境復元ツール(ドライブシールド SS) をリモート管理する為のソフトウェアです。

## 2 動作環境

対応 OS	Windows10 (32bit/64bit)、Windows8.1 (32bit/64bit) Server 2012 (R2)、Server 2016、Server 2019  ※Windows10 のバージョンにより使用するドライブシールドのインストールプログラムが異なる場合があります。 Windows10 大型アップデートへの対応状況につきましては、弊社ホームページをご確認ください。
ネットワーク	TCP/IP
必要スペック	メモリ 2GB 以上 解像度 1024×768 以上 .NET Framework 3.5(.Net 2.0 および 3.0 を含む)
その他	インターネットを経由したライセンスの登録や追加の際に、インターネットに接続されていて、SSL プロトコルが利用可能である必要があります。 プロキシ環境をご利用の場合は、手動認証による手順を実施下さい。

## 3 主なコントロール内容一覧

コントロール内容	詳細
クライアントコントロール	プロテクト／プロテクト解除モードの切替え
	USB ブロッキングのオン／オフ
	キーボード、マウスのロック／ロック解除
	ステルスモードのオン／オフ
	電源の起動／再起動／シャットダウン
	パスワードの設定／変更
	スケジューリング

# インストール方法

## 1 スマートコントロールのインストール方法

- (1) インストール CD 中の「スマートコントロール\_管理プログラム」フォルダを開き、**Smart Control.exe** アイコンをダブルクリックして実行します。



※アイコンの名前やデザインは上記と異なる場合があります。

- (2) [Next] をクリックします。



- (3) 使用許諾契約の画面が表示されます。画面の内容をよくお読みの上、[I have read, understand, and accept the License agreement] にチェックを入れ、[Next] をクリックします。



- (4) ユーザ情報の入力を行います。License Key(ライセンス証書に記載してあります。), Password for Smart Control TM を入力し、[Next] をクリックします。  
\*すべての項目を入力しないと、[Next] ボタンは表示されません。



\* [Next] ボタンをクリック後、以下の画面が表示される場合は、[OK] ボタンをクリックし、そのままインストールを進めてください。再起動後、2 手動認証についてを参照し、認証作業を行ってください。



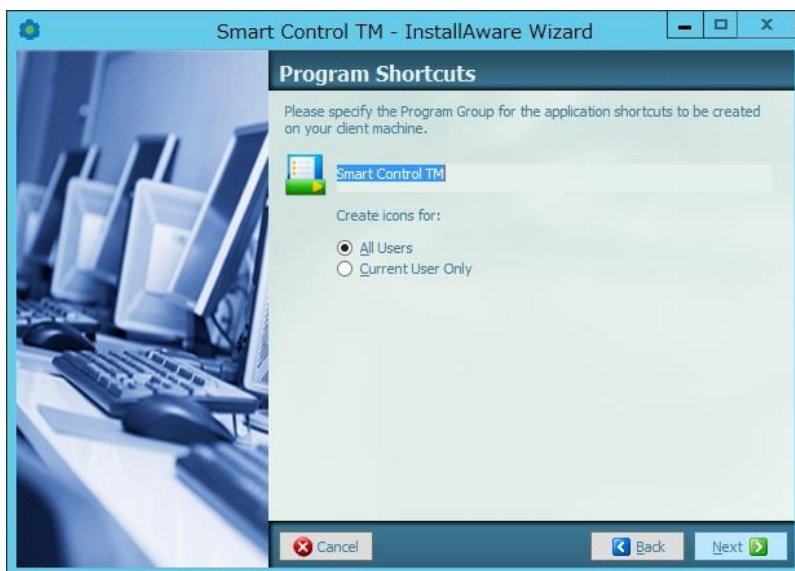
(5) インストール先フォルダを指定します。通常は既定の設定 (C:\Program Files\Centurion Technologies) のまま、[Next] をクリックします。



(6) こちらは、使用しない機能の設定となります。チェックを入れず、そのまま「Next」をクリックします。



- (7) プログラムのショートカットアイコンを作成する対象を、All Users(すべてのユーザ)、または Current User Only(現在のユーザのみ) から選択し、[Next] をクリックします。



- (8) [Next] をクリックします。



- (9) [Reboot computer now] にチェックを入れ、[Finish] をクリックします。自動的に再起動が始まり、インストールが完了します。



**\* クライアント側のインストールと設定方法**

ドライブシールド SS をインストールしたクライアント側では、スマートコントロールと接続するための、IP アドレスとポート番号の設定が必要となります。詳しい設定方法は製品付属の「インストール／操作ガイド」をご参照ください。

## 2 手動認証について

プロキシ環境、または、インターネット接続が無い環境にてインストールを行う場合は、以下の手順を実施してください。

該当しない場合は、手動認証の手順は必要ありません。

### 【概要】

- ・スマートコントロールのインストール後、認証用ファイルを作成します。
- ・手動認証専用のホームページへアクセスし、作成したファイルをアップロードします。
- ・アップロードを行うと認証済みファイルが作成されます。そのファイルを取得します。
- ・認証済みファイルを、スマートコントロールにて読み込み、認証が完了します。

\* インターネット接続が無い PC でスマートコントロールを使用する場合は、インターネットに接続できる別の PC にて認証済みファイルを取得できます。

\* ctiregOUT.cen、ctiregIN.cen のファイル名は変更しないで下さい。

- (1) 起動後、画面左の [127.0.0.1] を右クリックします。[ライセンス情報] をクリックし、[手動認証] タブにて、[ファイルの作成] をクリックします。



- (2) ファイルを保存する場所を指定します。保存先に **ctiregOUT.cen** というファイルが作成されます。

\* **ctiregOUT.cen** のファイル名は変更しないで下さい。

- (3) [ブラウザを開く] をクリックします。Web ブラウザが起動し、手動認証専用ページにアクセスします。

<http://registration.centuriontech.com>



- (4) [参照] をクリックし、(2)にて作成した **ctiregOUT.cen** ファイルを選択します。その後、[Upload] をクリックします。

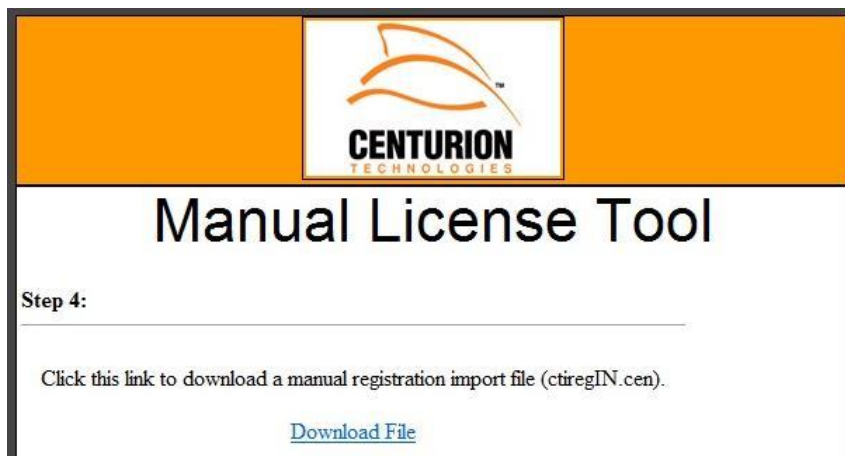
画面内に **File to be processed: ctiregOUT.cen** と表示されます。





(5) [Process File] をクリックします。画面内に表示された Download File をクリックし、ctiregIN.cen というファイルをダウンロードします。ファイルを任意の場所に保存してください。

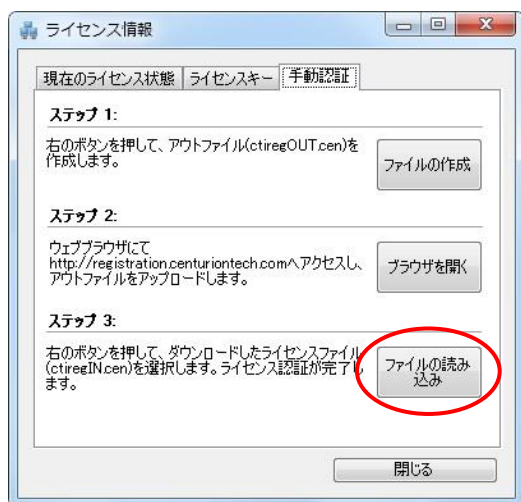
\* ctiregIN.cen のファイル名は変更しないでください。



\* Internet Explorer 10 以降をご使用の場合、ファイルのダウンロードができない場合があります。この場合は、認証ページのトップページにて、アドレスバーの右にある互換表示ボタンをクリックして、互換性表示を有効にしてからファイルのアップロード、ダウンロードを実施してください。



- (6) (2) からの手順を実施し、以下の画面にて、[ファイルの読み込み] をクリックします。ダウンロードした ctiregIN.cen を選択してください。



- (7) 認証が成功すると、以下の画面が表示されます。[OK] をクリックし、PC を再起動してください。起動後、ライセンス認証が完了します。



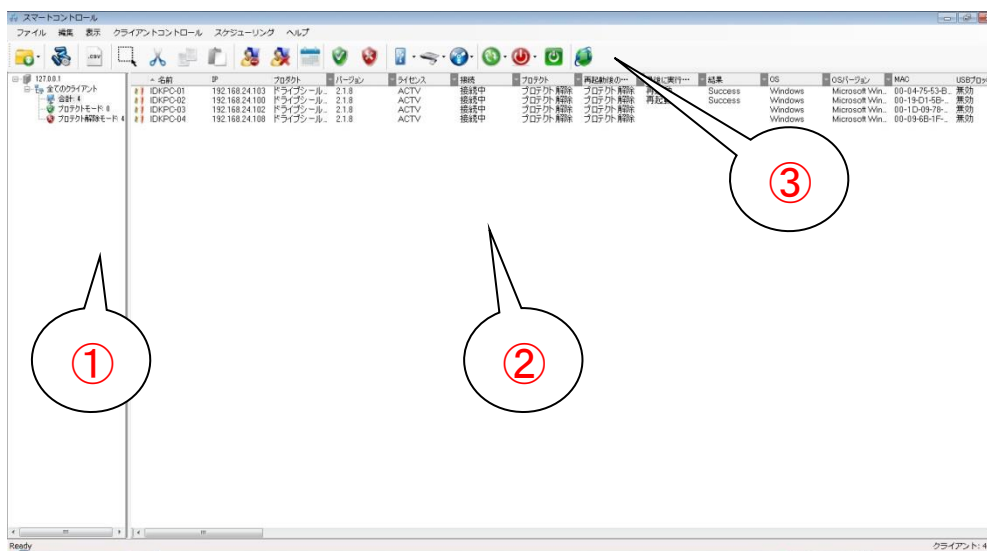
# 起動方法と画面の説明

## 1 起動方法

デスクトップ上の Smart Control アイコンをダブルクリックすることで、スマートコントロールが起動します。

## 2 画面の説明

画面左側に表示された [全てのクライアント] をクリックすると、接続中のクライアントが表示されます。



### ① グループペイン

クライアントのグループを表示します。ここでグループを作成することができます。

### ② クライアントリスト

PC 環境復元ツール(ドライブシールド SS)がインストールされたクライアントコンピュータが表示されます。

スマートコントロールと未接続の状態で 15 日以上が経過したクライアントコンピュータは、赤色で表示されます。更に 28 日以上未接続のクライアントコンピュータは、黄色の背景色になります。

### ③ ツールバー

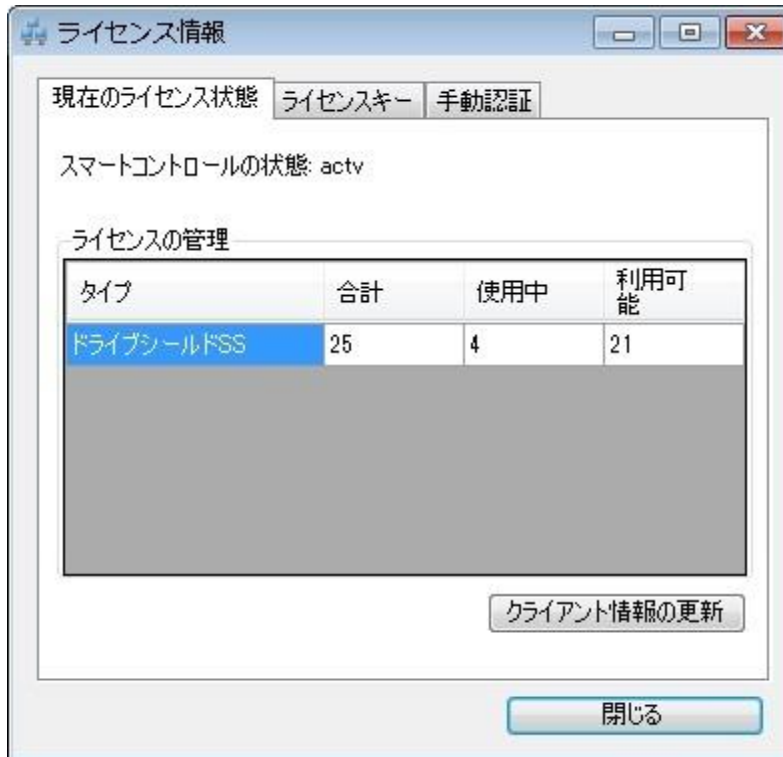
クライアントコンピュータを制御するボタンが表示されます。

### 3 ライセンス情報の確認

現在のライセンスの情報を確認します。

画面左側の 127.0.0.1 を右クリックし、[ライセンス情報] を選択します。

表示された”ライセンス情報ウィンドウ”の [現在のライセンス状態] タブ を選択します。ライセンス情報ダイアログが表示されます。



“合計”

管理できるクライアント数

“使用中”

クライアントに配信済みのライセンス数

“利用可能”

残りのライセンス数になります。

#### 4 画面のカスタマイズ

ツールバーのカスタマイズにて、ボタンの表示/非表示の設定を行うことが可能です。既定では、すべてのボタンが表示されています。



アイコン	機能	アイコン	機能
	新規グループ グループフィルターの作成		初期設定
	CSV エクスポート		全てを選択
	切り取り		コピー
	貼り付け		グループからクライアント を削除
	スマートコントロールから クライアントを削除		スケジュールリング
	プロテクトモード		プロテクト解除モード
	USB デバイスの ロック/ロック解除		キーボードとマウスのロッ ク/ロック解除
	Firewire のロック/ロック解 除		再起動
	シャットダウン		起動

ボタンのカスタマイズを行うには、

メニューバーの [表示] → [ツールバー] からカスタマイズを行ってください。

各ボタンの構成は以下の通りです。

標準	
プロテクト	
電源管理	

# グループ分けの方法

管理するクライアントの台数が多い場合、グループ分けを行うと便利です。

グループ分けを行う事により、プロテクトモードやプロテクト解除モードなどの操作がグループ単位で可能になります。



## 1 新規グループを作成する方法

(1) 画面左ツリーの「127.0.0.1」を選択した状態で、メニューバーの [ファイル] - [新規] - [グループ] を選択するか、または、画面左ツリー下の空欄部分を右クリックし、[新規グループ] をクリックします。

(2) [新規グループ] というフォルダが作成されます。フォルダにグループ名を設定します。グループ名を変更する場合は、作成したグループを右クリックし、[名前変更] を選択し名前を変更します。

例:1組、2組 等...

## 2 サブグループを作成する方法

(1) 新規グループにて作成したグループを右クリックし、[新規(サブグループ)] を選択します。

(2) [新規グループ] というフォルダが作成されます。フォルダにグループ名を設定します。サブグループ名を変更する場合は、作成したサブグループを右クリックし、[名前変更] を選択し名前を変更します。

例:1班、2班 等...

### 3 クライアントをグループに登録する方法

- (1) 画面左側で [全てのクライアント] をクリックした後、画面右側のリストから、対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [編集] - [コピー] をクリックし、登録したいグループのフォルダをクリックした後、[編集] - [貼り付け] をクリックします。または、対象となるクライアントを選択したまま、登録したいグループのフォルダにドロップします。

### 4 グループフィルターに登録する方法

フィルタリングを使用してクライアントのグループ分けが可能です。

- (1) 画面左ツリーの「127.0.0.1」を選択した状態で、メニューバーの [ファイル] - [新規] - [グループフィルター] を選択するか、または右クリックし、[新規グループフィルター] を選択します。フィルタリングの設定画面が表示されます。

グループフィルター

グループフィルタ名

フィルタの説明

ネームフィルタ  
コンピュータ名の一部分を使用したフィルタリングが可能です。使用できるワイルドカード '?' 1文字を置き換えます。\*1つ以上の文字を置き換えます。

IPアドレス

先頭

末尾

プロダクト

現在のプロテクト状態

次回のプロテクトモード

接続状態

バージョン

ライセンスの状態

Firewireブロックング

USBブロックング

キーボードとマウス

オペレーティングシステム

アーキテクチャ

保存 キャンセル

- (2) [グループフィルタ名] にグループフォルダの名前を入力します。
- (3) それぞれのフィルタリングの設定を行った後、[保存] ボタンをクリックします。フィルターグループが作成されます。



## 5 グループを削除する方法

グループのフォルダを右クリックし [削除] を選択します。グループのフォルダが削除されます。

## 6 クライアントをグループから除外する方法

対象のグループフォルダをクリックし、表示されたクライアントを選択した後、メニューバーの [編集] → [グループからクライアントを削除] を選択します。

または、クライアントを右クリックで選択し、[グループからクライアントを削除] を選択します。

# 基本操作

スマートコントロールからクライアントを制御するための基本的な動作です。

## 1 コントロールの対象とするクライアントの選択方法

### 1-1 全てのクライアントを選択する方法

左側の画面で [全てのクライアント] をクリックし、右側のクライアントの一覧内をクリックした後、メニューバーの [編集] → [全てのクライアントを選択] を選択します。

### 1-2 グループ内の全てのクライアントを選択する方法

左側の画面で対象のグループフォルダを選択し、右側のクライアントの一覧内をクリックした後、メニューバーの [編集] → [全てのクライアントを選択] を選択します。

### 1-3 任意の複数のクライアントを選択する方法

範囲選択:

キーボードの [Shift] を押しながら、選択したい範囲内の一番上と一番下のクライアントをクリックします。

任意選択:

キーボードの [Ctrl] を押しながら、選択したいクライアントを1台ずつクリックしていきます。

## 2 プロテクト／プロテクト解除モードについて

### 2-1 プロテクトモードにする方法

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [クライアントをプロテクトモードへ] を選択します。または、画面上部の [プロテクト] ボタンをクリックします。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) 次に、メニューバーの [クライアントコントロール] から [電源管理] → [クライアントを再起動] 又は [クライアントを遅延再起動] を選択し、クライアントを再起動します。

※ 未保存のデータがあっても強制的に再起動されますので、ご注意ください。

- (5) 再起動後、対象のクライアントがプロテクトモードになります。

### 2-2 プロテクト解除モードにする方法

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [クライアントをプロテクト解除モードへ] を選択します。または、画面上部の [プロテクトを解除] ボタン をクリックします。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) 次に、メニューバーの [クライアントコントロール] から [電源管理] → [クライアントを再起動] 又は [クライアントを遅延再起動] を選択し、クライアントを再起動します。

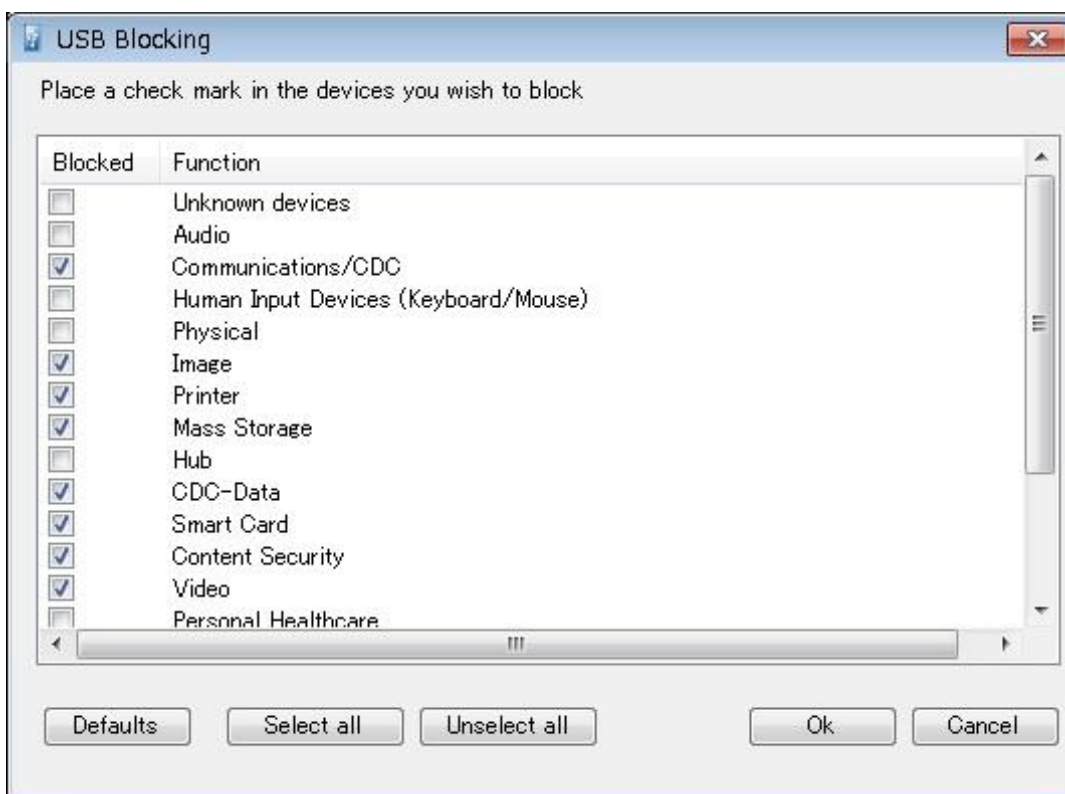
※ 未保存のデータがあっても強制的に再起動されますので、ご注意ください。

- (5) 再起動後、対象のクライアントがプロテクトモード解除モードになります。

### 3 USB ブロッキングについて

#### 3-1 USB ブロッキングをオン

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [USB ブロッキングを有効] を選択します。または、画面上部の [USB] ボタン から [USB ブロッキングを有効] をクリックします。



- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) ”結果” の列に Success と表示されれば、操作完了です。

### 3-2 USB ブロッキングをオフ

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [USB ブロッキングを無効] を選択します。または、画面上部の [USB] ボタン から [USB ブロッキングを無効] をクリックします。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。



- (4) "結果" の列に Success と表示されれば、操作完了です。

## 4 キーボードとマウスのロックについて

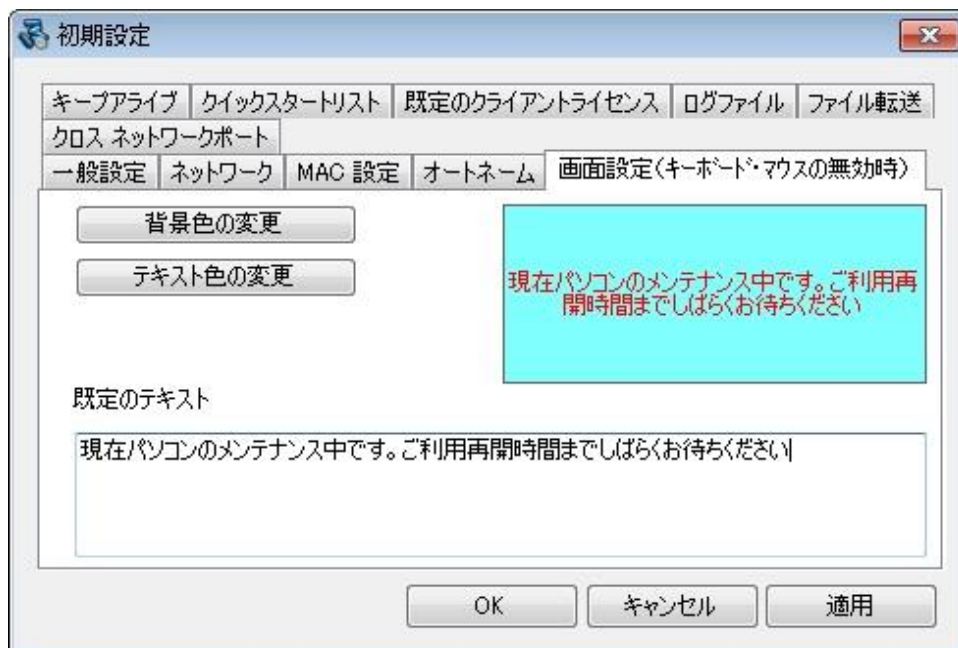
クライアントのキーボードとマウスをロック(使用不可)/ロック解除(使用可能)にする事が可能です。

### 4-1 キーボードとマウスをロック(使用不可)する

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [キーボードとマウスを無効] を選択します。または、画面上部の [キーボード・マウス] ボタン から [キーボードとマウスを無効] をクリックします。
- (3) クライアントの画面が赤くなり、キーボードとマウスがロックされている旨のメッセージが表示されます。キーボードとマウスが使用不可となります。
  - \* ログイン画面では、キーボードとマウスのロック時の赤色画面は表示されません。

\* ロック時にクライアントに表示される文章と背景色を設定することが可能です。設定を変更するには、メニューバーの [ファイル] → [初期設定] をクリックします。

設定例:

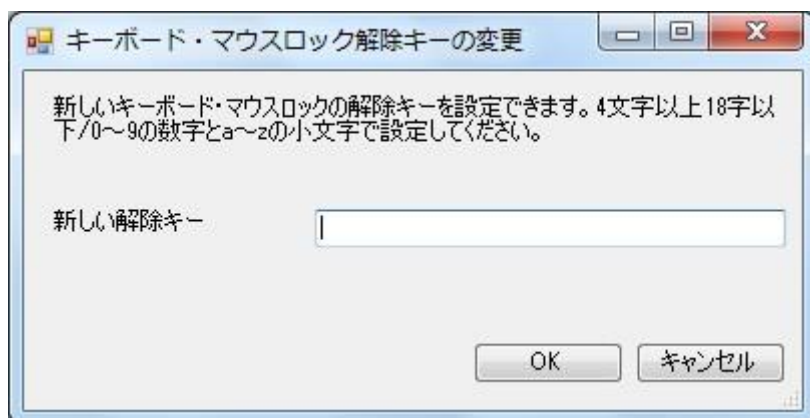


## 4-2 キーボードとマウスをロック解除(使用可能)する

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [キーボードとマウスを有効] を選択します。または、画面上部の [キーボード・マウス] ボタン から [キーボードとマウスを有効] をクリックします。
- (3) クライアントの赤い画面が消え、クライアントのキーボードとマウスが使用可能となります。

## 4-3 キーボードとマウスのロック解除キーの変更

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [キーボード・マウスのロック解除キーの変更] を選択します。以下のダイアログが表示されます。



- (3) 新しく設定する解除キーを入力し、OK をクリックします。  
[パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) "結果" の列に Success と表示されれば、操作完了です。

## 5 Firewire のロックについて

クライアントの Firewire デバイスの接続を制限できます。

### 5-1 Firewire をロック解除(使用可能)する

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [Firewire ブロッキングを有効] を選択します。または、画面上部の [Firewire] ボタン から [Firewire ブロッキングを有効] をクリックします。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) ”結果” の列に Success と表示されれば、操作完了です。

### 5-2 Firewire をロック(使用不可)する

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [プロテクトモード] → [Firewire ブロッキングを無効] を選択します。または、画面上部の [Firewire] ボタン から [Firewire ブロッキングを無効] をクリックします。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) ”結果” の列に Success と表示されれば、操作完了です。



## 6 ステルスモードについて

クライアントのプロテクト/プロテクト解除の状態を示すアイコンを表示、または非表示に設定できます。ステルスモードがオンの場合、アイコンは非表示になります。

\* ステルスモードについての詳細は、ドライブシールド SS のマニュアルをご確認ください。

### 6-1 ステルスモードをオン

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [ステルスモードを有効] を選択します。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) ”結果” の列に Success と表示されれば、操作完了です。

### 6-2 ステルスモードをオフ

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [ステルスモードを無効] を選択します。
- (3) [パスワード入力] というダイアログが表示されますので、クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (4) ”結果” の列に Success と表示されれば、操作完了です。

## 7 電源管理について

### 7-1 再起動の方法

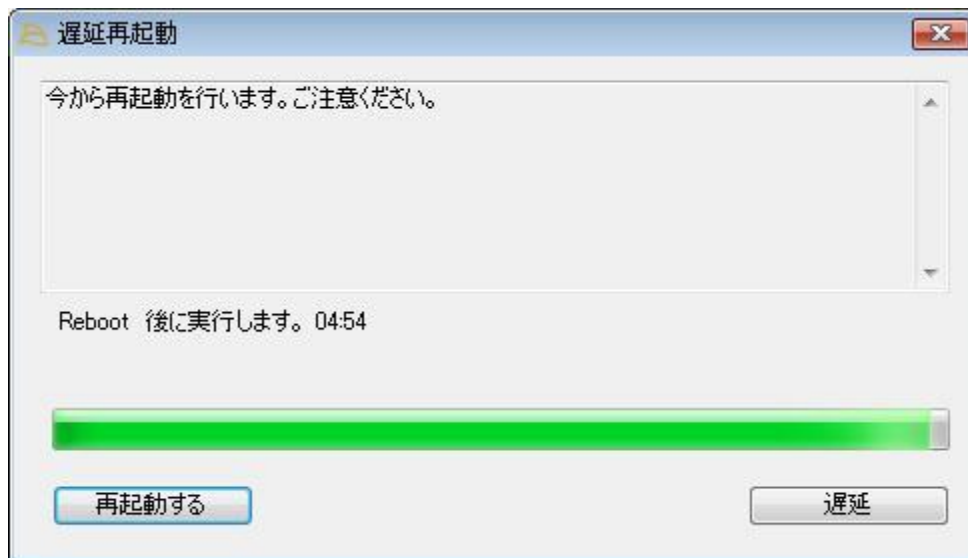
- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [クライアントを再起動] を選択します。
- (3) クライアントの再起動が始まります。

### 7-2 指定した時間後に再起動する方法

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [クライアントを遅延再起動] を選択します。
- (3) クライアントに通知するメッセージをメッセージ欄に入力します。その後、時間と保留回数を指定し、[OK] ボタンをクリックします。



- (4) クライアント側では、次のようなダイアログが表示されます。  
[遅延] をクリックすると、現在の残り時間に、指定した時間が追加されます。  
[再起動する] をクリックすると、すぐに再起動を行います。



### 再起動をキャンセルする

- (1) 実行したクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [遅延再起動をキャンセル] を選択します。
- (3) 再起動がキャンセルされます。

### 7-3 シャットダウンの方法

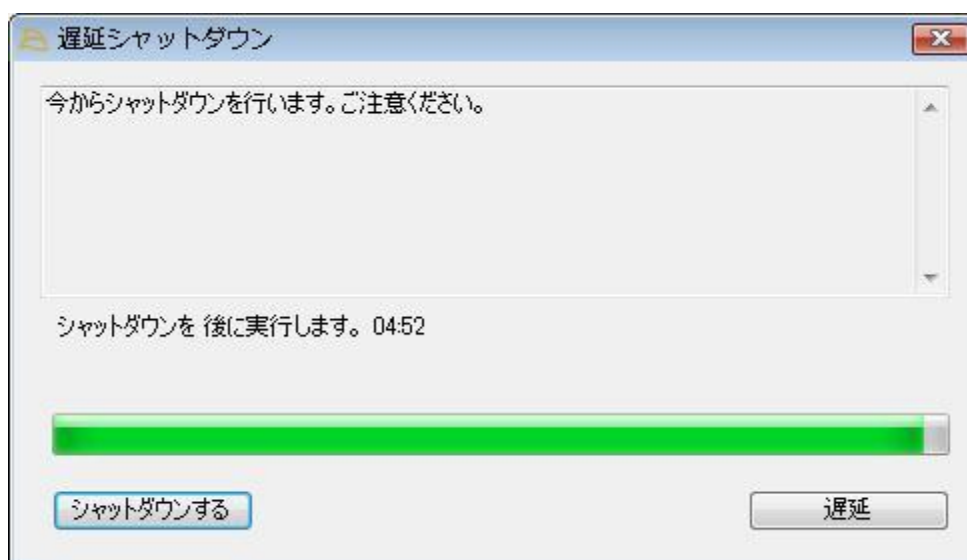
- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [クライアントをシャットダウン] を選択します。
- (3) シャットダウンが始まります。

#### 7-4 指定した時間後にシャットダウンする方法

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [クライアントを遅延シャットダウン] を選択します。
- (3) クライアントに通知するメッセージをメッセージ欄に入力します。その後、時間と保留回数を指定し、[OK] ボタンをクリックします。



- (4) クライアント側では、次のようなダイアログが表示されます。ここで [遅延] をクリックすると、現在の残り時間に、指定した時間が追加されます。[シャットダウンする] をクリックすると、すぐにシャットダウンを行います。



シャットダウンをキャンセルするには、

- (1) 実行したクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [遅延シャットダウンをキャンセル] を選択します。
- (3) シャットダウンがキャンセルされます。

#### 7-5 起動の方法

※ 起動には、対象のコンピュータが Wake on LAN に対応している必要があります。  
対象のコンピュータの Wake on LAN 対応の可否、または Wake on LAN 自体の設定方法等につきましては、各コンピュータのベンダー様へお問い合わせください。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [電源管理] → [起動(Wake on LAN) ] を選択します。
- (3) クライアントの起動が始まります。

## 7-6 再起動する時間を設定する

この設定を行うことで、クライアント PC を 1 日 1 回、指定した時間に自動的に再起動を実行させることが可能です。

(1) 対象のクライアントを選択します。

(2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [Daily Reboot] を選択します。設定ダイアログが表示されます。



(3) 「有効」にチェックをいれ、クライアントを再起動させる時間を設定します。

(4) [OK] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [OK] をクリックしてください。

## 8 パスワードについて

クライアントの PC 環境復元ツールに設定したパスワードを変更することができます。

### 8-1 パスワードの変更

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [パスワード] → [パスワード管理] をクリックします。
- (3) 次のダイアログが表示されます。上の段に従来のパスワード、中段に新しいパスワードを入力し、確認の為、下段に新しいパスワードを再入力し [OK] をクリックしてください。

※ “パスワード表示” にチェックを入れると、入力内容の確認ができます。

クライアントのパスワードを変更します

クライアントのパスワードを変更します

現在のパスワード \*\*\*\*\*

新しいパスワード \*\*\*\*\*

新しいパスワードを再入力 \*\*\*\*\*

パスワードを表示

Ok キャンセル

## 8-2 機能毎にパスワードを設定する

プロテクトモード変更時のみ適応されるパスワードや USB デバイス制御設定変更時のみ適応されるパスワードを設定できます。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [パスワード管理] → [パスワードの追加] を選択します。
- (3) [Password Permissions] 欄より、パスワードを設定したい機能を選択します。
- (4) 「基本設定」からパスワード名やパスワードを設定します。

[パスワード名]

パスワード名を設定します。

[説明]

設定するパスワードに注釈を加える場合はこの欄に記入します。

[パスワード]

設定するパスワードを入力します。

[パスワードの再入力]

確認用にもう一度パスワードを設定します。

- (5) 「制限設定(任意)」よりオプションの設定を行います。  
\* こちらの設定は必要な場合のみ行ってください。

[開始日]

パスワードの開始時期を設定します。

[終了日]

パスワードの終了時期を設定します。

[使用回数]

パスワードの使用回数を設定します。

- (6) 「パスワードの保存」をクリックし、インストール時に設定したパスワードを入力しま



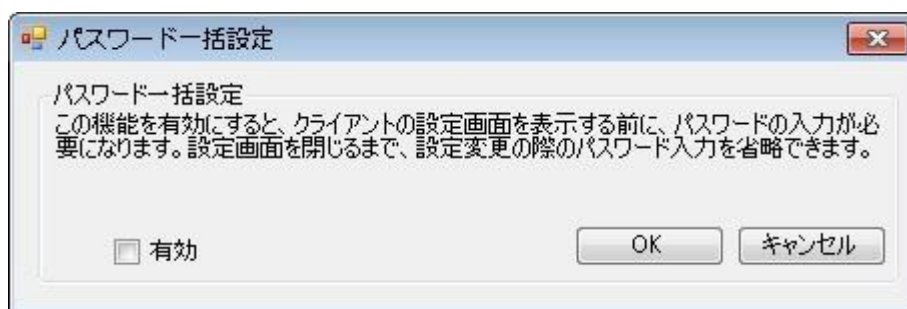
す。

- (7) 設定したパスワードはメニューバーの [クライアントコントロール] → [パスワード] → [パスワードの確認] から確認できます。

### 8-3 パスワード一括入力設定

この設定を行うことで、クライアントで行う設定変更時のパスワード入力を省略することが可能になります。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [パスワード一括設定] を選択します。設定ダイアログが表示されます。



- (3) [有効] にチェックいれ、「OK」をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し「Ok」をクリックします。

# その他の操作・設定

スマートコントロールには、クライアントを制御するための様々な機能があります。

## 1 ドライブにあるフォルダをプロテクトから除外する (ODP)

ODP を使用することで、ドライブ内にあるフォルダをプロテクト対象から除外することが可能です。プロテクト状態のドライブでも、指定したフォルダ内のファイルの更新維持が可能になります。

- ・ 以下は復元フォルダ除外機能(ODP 機能)に対応していません。  
指定しないようご注意ください。

C:¥Windows

C:¥Program Files

C:¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Local \*隠しフォルダ

- ・ レジストリを除外指定することはできません。

\* プロテクト有効中は、設定の変更はできません。プロテクト解除状態で設定を行なってください。

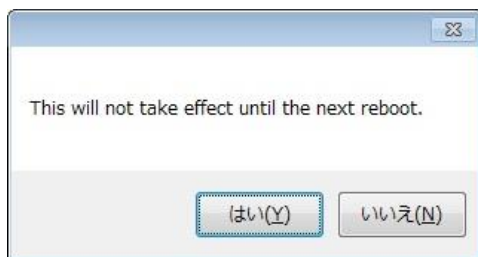
(1) 対象のクライアントを選択します。

(2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [Optional Directory Protection] を選択します。

(3) テキストボックスの中に、対象のフォルダをフルパスで入力します。



(4) [OK] をクリックします。以下のダイアログが表示されます。



(5) [はい] をクリックして、パスワードを入力します。クライアントの再起動後、設定が適用されます。

指定を解除する場合は、解除したいフォルダをフルパスで入力し、[プロテクトの除外を解除] にチェックを入れます。

その後、[OK] をクリックし、パスワードを入力します。再起動後に変更が適用されません。

\* フォルダを ODP から解除しても、実際のフォルダは削除されません。

## 2 印刷の制限機能

クライアントで実行される印刷の許可・制限をスマートコントロールから制御できます。

### 2-1 印刷を無効にする

(1) 対象のクライアントを選択します。

(2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [印刷を無効] を選択します。

(3) パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し[OK]をクリックします。

## **2-2 印刷を有効にする**

(1) 対象のクライアントを選択します。

(2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [印刷を有効] を選択します。

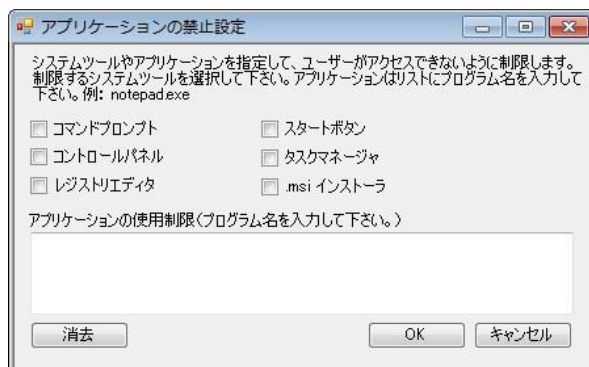
(3) パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し[OK]をクリックします。

### 3 アプリケーションの禁止設定

PC のシステムツールや、指定したアプリケーションをユーザが使用できない様に、アクセス制限を設定することが可能です。

- (1) 対象のクライアントを右クリックで選択します。
- (2) [その他の設定] → [禁止設定] を選択します。設定ダイアログが表示されます。
- (3) アクセス制限を設定する項目にチェックを入れてください。以下の機能が選択可能です。
  - ・コマンドプロンプト
  - ・スタートメニュー
  - ・コントロールパネル
  - ・タスクマネージャー
  - ・レジストリエディタ
  - ・.msi インストーラの起動

アプリケーションを指定する場合は、テキストボックスにプログラム名を入力してください。例： iexplore.exe



- (4) [OK] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [OK] をクリックしてください。クライアントを再起動後、設定が反映されます。
- (5) 制限を解除する場合は、[消去] をクリックしたあと、[OK] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [OK] をクリックします。再起動後、制限が解除されます。

#### 4 スマートコントロールの変更について

クライアントが接続を行うスマートコントロールを変更します。

- \* クライアントの設定画面にある [スマートコントロール] から接続設定を変更することも可能です。
- \* 設定変更後に接続するスマートコントロールは、予めインストールしておく必要があります。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [コントロールセンターの変更] → [Primary] をクリックします。
- (3) 次のダイアログが表示されます。上段に変更先のスマートコントロールがインストールされた PC の IP アドレスを入力し、下段にポート番号を入力します。(ポート番号は既定値で 25553 が入力されています。)
- (4) 入力後、[テスト] をクリックします。



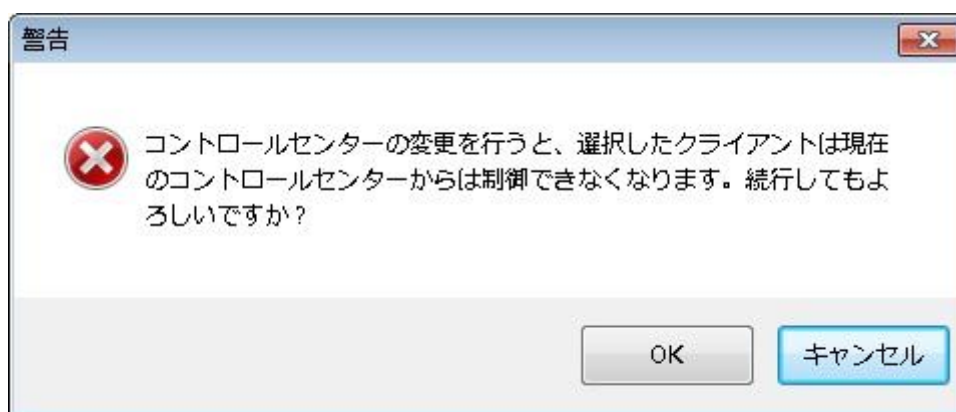
- (5) [OK] をクリックします。



- (6) 接続テストの完了後に [OK] ボタンをクリックします。



- (7) [OK] をクリックします。

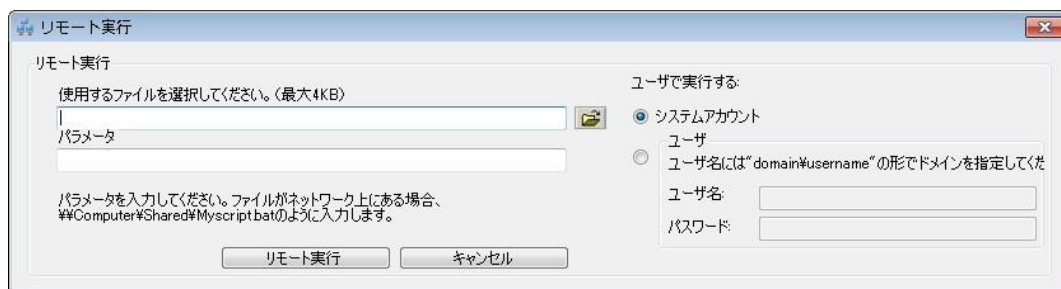


- (8) [パスワード入力] ダイアログが表示されます。クライアント側の PC 環境復元ツールに設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- (9) 接続先のスマートコントロールにて、該当のクライアントが正常に接続されたかをご確認下さい。

## 5 リモート実行について

この機能は、指定したバッチファイルをクライアントへ実行させることができます。使用例として、Windows の設定変更や、特定のソフトウェアの更新などが可能になります。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [リモート実行] をクリックします。
- (3) 次のダイアログが現れます。フォルダアイコンをクリックし、ファイル一覧から実行するバッチファイルを選択します。  
\* 指定できるファイルサイズは、50kb が上限です。
- (4) [リモート実行] ボタンをクリックします。クライアント側でバッチファイルが実行されます。



## 6 クライアントのプロパティ

クライアントの端末の情報や、現在の設定内容を確認できます。

- (1) 対象のクライアントを右クリックで選択します。
- (2) メニューから[プロパティ] を選択します。表示された画面にて、現在の設定内容等を確認することができます。

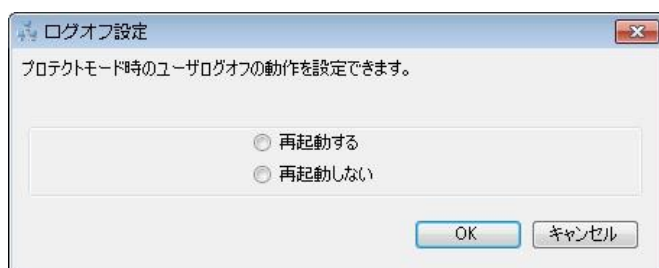


## 7 クライアントのログオフを再起動に変更する

ドライブシールド SS の環境復元機能は、コンピュータの電源を再起動することで、一時保存領域に蓄積されたデータがリセットされ、元の状態に復元されます。そのため、「ログオフ」 - 「ログオン」の動作では復元されません。

以下の設定を変更することで、クライアントがログオフを行った際に再起動を実行し、環境復元を行う事が可能です。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [クライアントのログオフ設定] を選択します。

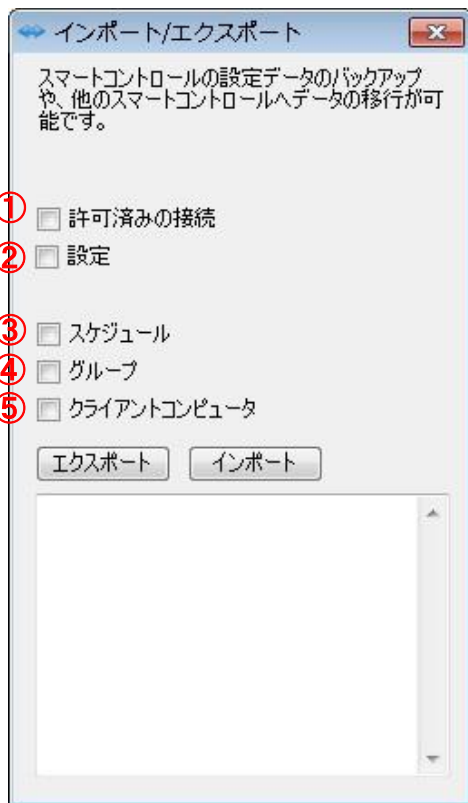


- (3) [再起動する] を選択し、[OK] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し[OK] をクリックします。

## 8 設定のインポート・エクスポートについて

スマートコントロールで設定したスケジュールやグループフォルダなどをファイル形式で保存することが可能です。保存した設定ファイルは、移行先のスマートコントロール PC にもインポートが可能です。

- (1) メニューバーの [ファイル] → [データのインポート/エクスポート] を選択します。以下のダイアログが表示されます。



- ① “許可済みの接続”  
リモート接続しているスマートコントロールの設定
- ② “設定”  
スマートコントロールの初期設定
- ③ “スケジュール”  
スマートコントロールにて作成したスケジュール
- ④ “グループ”  
スマートコントロールにて作成したグループフォルダ
- ⑤ “クライアントコンピュータ”  
接続されているクライアントコンピュータの情報

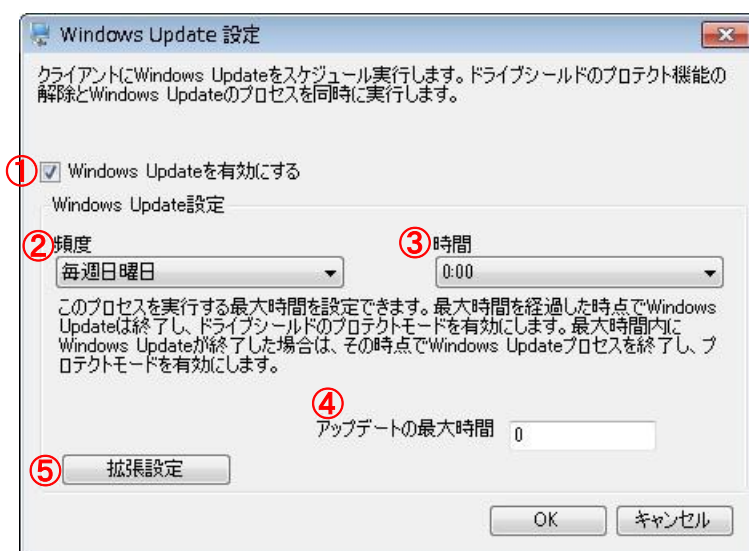
- (2) それぞれエクスポートしたい設定のチェックボックスにチェックを入れ、[エクスポート]ボタンをクリックします。
- (3) ファイル名を付けて保存します。設定をインポートする場合は、[インポート] ボタンをクリックして保存したファイルを選択します。

## 9 Windows Update 連携機能について

クライアントの Windows Update 自動実行を、スマートコントロールから管理できます。指定した時間にクライアントのプロテクトを解除、Windows Update を自動的に実行し、アップデート終了と同時にプロテクトを有効にします。

※Windows Update が実行されている最中は、キーボード・マウスの操作を受け付けません。ご注意ください。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [クライアントの Windows Update 設定] を選択します。
- (3) 以下のダイアログが表示されます。



- ① “Windows Updates を有効にする”  
チェックを入れるとクライアントの Windows Update 機能を有効にします。
- ② “頻度”  
Windows Update を実行する曜日を指定します。
- ③ “時間”  
Windows Update を開始する時間を指定します。
- ④ “アップデートの最大時間”  
Windows Update を実行する最大時間を設定します。最小の設定は 40 分です。
- ⑤ “拡張設定”

拡張設定ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。

クライアントに適用する更新プログラムは、4段階で指定することが可能です。



“すべて”

利用可能な更新プログラムを全てダウンロードし、インストールします。

“推奨”

深刻度「警告」「重要」「緊急」の修正プログラムをダウンロードし、インストールします。

“重要”

深刻度「重要」「緊急」の修正プログラムをダウンロードし、インストールします。

“緊急”

「緊急」の更新プログラムのみをダウンロードし、インストールします。

- (4) [OK]ボタンをクリックし、パスワードを入力します。Windows Update の設定がクライアントコンピュータに適用されます。

## 10 WSUS/SUS 設定について

ドライブシールド SS クライアント PC を、スマートコントロールから **Software Update Services** (以下 SUS) や、**Windows Server Update Services** (以下 WSUS) サーバに割り当てることが可能です。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [WSUS/SUS 設定] を選択します。
- (3) 以下のダイアログが表示されます。



[サーバ名]の欄に、WSUS/SUS サーバ名を http://の後に入力します。  
[チェックを入れると ~]の項目にチェックを入れると、クライアントから Windows Update の設定変更を防止することが可能です。

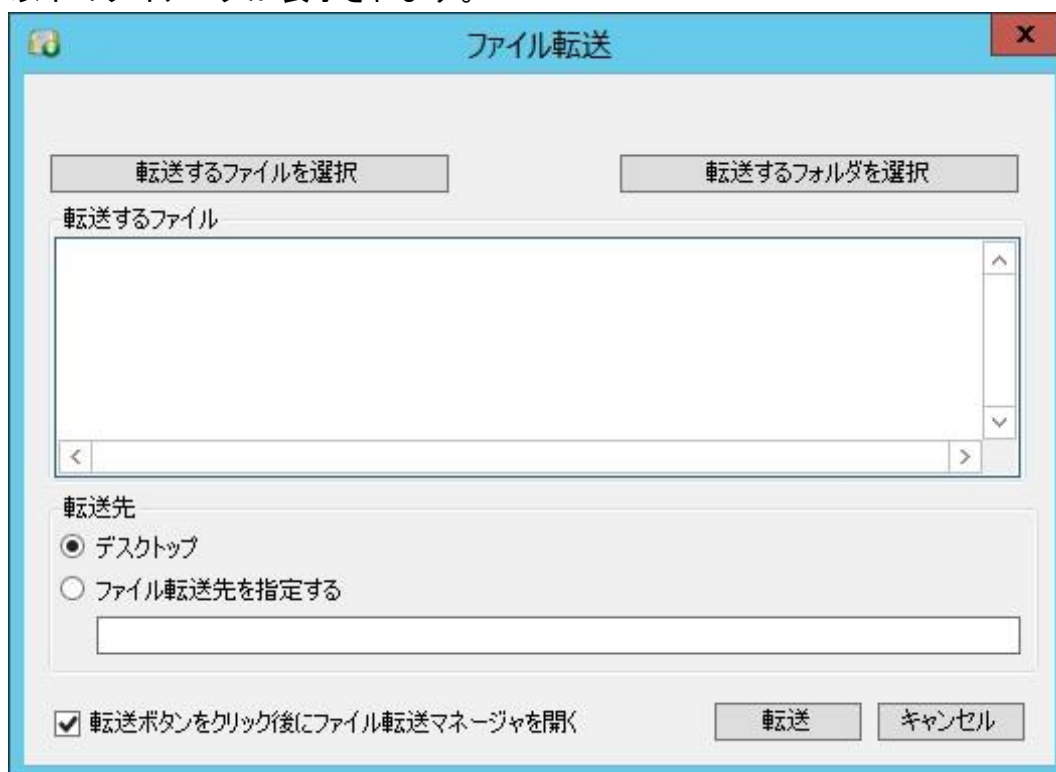
[OK] ボタンをクリックし、パスワードを入力します。  
クライアントコンピュータに WSUS/SUS サーバの設定が適用されます。

## 11 ファイル転送について

スマートコントロール PC に保存してあるファイルを、クライアント PC へ転送できます。

※ネットワークドライブや、サーバ上の共有フォルダから転送することはできません。  
対象のファイルをスマートコントロール PC のハードディスクに保存し、ファイル転送を行ってください。

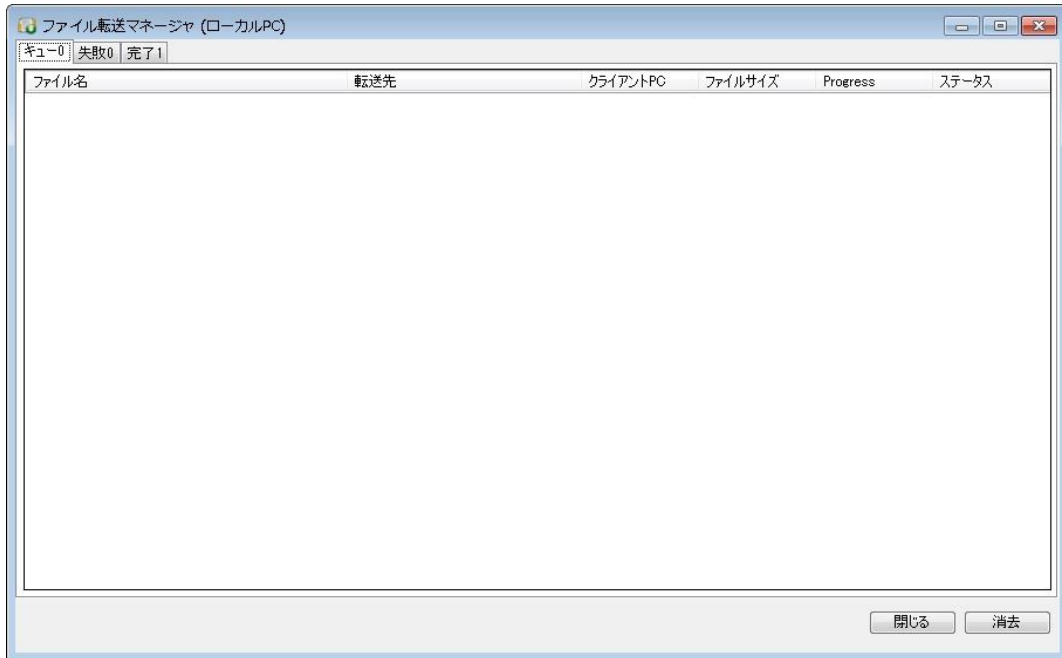
- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [その他の設定] → [ファイル転送] を選択します。
- (3) 以下のダイアログが表示されます。



- (4) [転送するファイルを選択]をクリックします。ファイル選択ダイアログが表示されず。転送するファイルを選択します。
- (5) [転送先]では、転送先の保存場所を指定します。[デスクトップ]を選択すると、クライアントコンピュータのデスクトップにファイルが転送されます。指定したディレクトリに転送したい場合は、[ファイル転送先を指定する]を選択し、空欄に転送先の

パスを入力します。

- (6) [送信]をクリックします。ファイル転送マネージャが表示され、対象のクライアントコンピュータにファイルが転送されます。

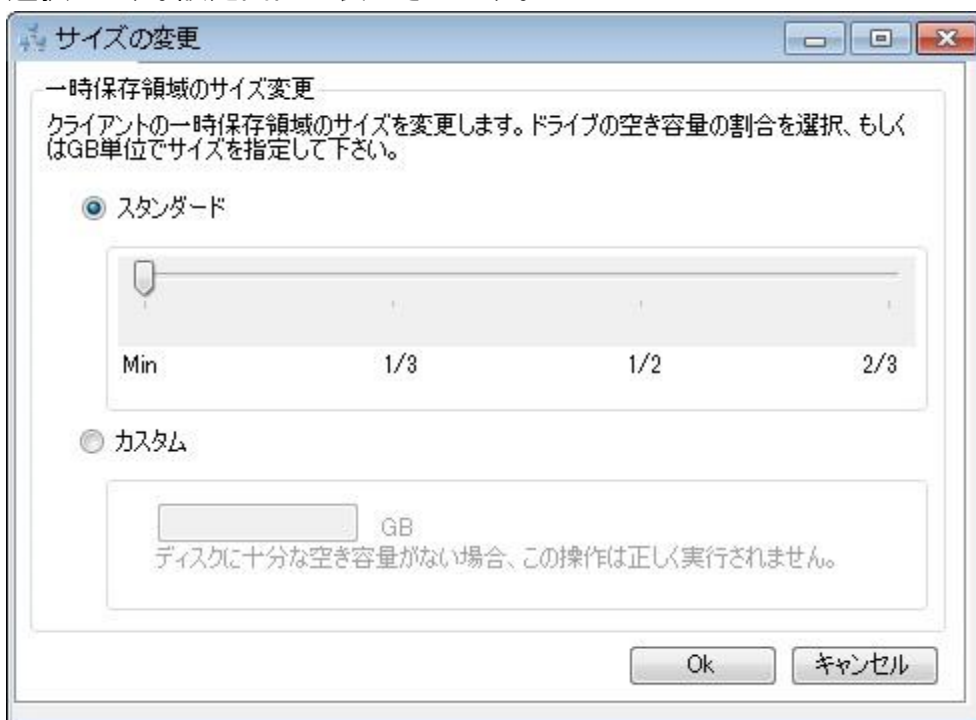


- ・”キュー”  
転送を待機しているクライアントを表示します。
- ・”失敗”  
転送が失敗したクライアントを表示します。
- ・”成功”  
転送が完了したクライアントを表示します。

## 12 一時保存領域のサイズ変更

クライアント PC が使用する一時保存領域の容量を、スマートコントロールから管理する事が可能です。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [一時保存領域のサイズ変更] を選択します。設定画面が表示されます。



- (3) 一時保存領域のサイズを指定します。  
[スタンダード]  
一時保存領域のサイズを、ハードディスクの空き容量の Min(最小サイズ)、1/3、1/2、2/3 から選択できます。  
  
[カスタム]  
一時保存領域のサイズを、GB 単位で入力して指定できます。
- (4) OK ボタンをクリックし、パスワードを入力します。  
クライアントコンピュータにてプロセスが実行され、一時保存領域のサイズが変更されます。



### 13 クライアントに単独認証用ライセンスキーを割り当てる

スマートコントロールと通信中のクライアントPCに、単独認証用のライセンスキーを割り当てます。単独認証用のライセンスキーを割り当てることで、クライアント PC はスタンドアロンの状態でも使用することが可能になります。

※対象のクライアント PC は、ライセンス認証の際に、インターネットに接続されていて、SSL プロトコルが利用可能である必要があります。

※プロキシ環境をご利用の場合は、ライセンスキーを割り当て後に手動認証の手順を実施してください。

- (1) 対象のクライアントを選択します。
- (2) メニューバーの [クライアントコントロール] → [スタンドアローンライセンスの割り当て] を選択します。設定ダイアログが表示されます。



- (3) 入力欄に単独認証用ライセンスキーを入力し、[OK] ボタンをクリックします。
- (4) クライアントコンピュータの再起動が必要とのメッセージが表示されます。[はい] を選択し、クライアント PC を再起動します。起動後、クライアントコンピュータにライセンスキーが割り当てられます。

# スケジューリング

スケジューリングの機能により、プロテクトやプロテクト解除、再起動やシャットダウンの操作を自動的に行う事ができます。

この機能を利用する事により、例えば、深夜の時間帯に自動的にウイルス対策ソフトの定義ファイルの更新や Windows Update を行う事が可能になります。

\* 但し、ウイルス対策ソフトは指定した日時、またはコンピュータ起動時に自動的にアップデートされる設定になっている必要があります。

## 1-1 スケジュールの作成

画面の構成と共に、実際の設定例をご説明します。

### 設定例:

特定のクライアントに対して、毎週水曜日の 21 時にプロテクトを解除し、23 時半にプロテクトを有効にし、シャットダウンを行います。

\* スケジュールは、21 時にプロテクトを解除する設定と 23 時半にプロテクトを有効にし、シャットダウンする設定の 2 つを作成します。

**スケジュール 01:クライアント起動 → プロテクト解除 → 再起動**

**スケジュール 02:プロテクト → シャットダウン**

スケジュール 01 と 02 の間に、プロテクト解除の状態が、2 時間半あります。

この時間を利用し、ウイルス対策ソフトの自動アップデート等を行う事ができます。

\* ウィルス対策ソフトの自動アップデートの設定に関しては、各ソフトウェアベンダー様へお問い合わせください。

初めに、スケジュール 01 を作成します。

(1) メニューバーの [スケジュールリング] → [スケジュールリング] をクリックします。

(2) [開始/終了日時] タブにて、開始/終了日時、スケジュール名等の設定を行います。

① 時間

開始時刻: スケジュールの開始時刻を設定します。

② 日程

1 回のみ、毎日、毎週(曜日指定): 毎月(日にち指定)の中からスケジュールの日程を指定します。

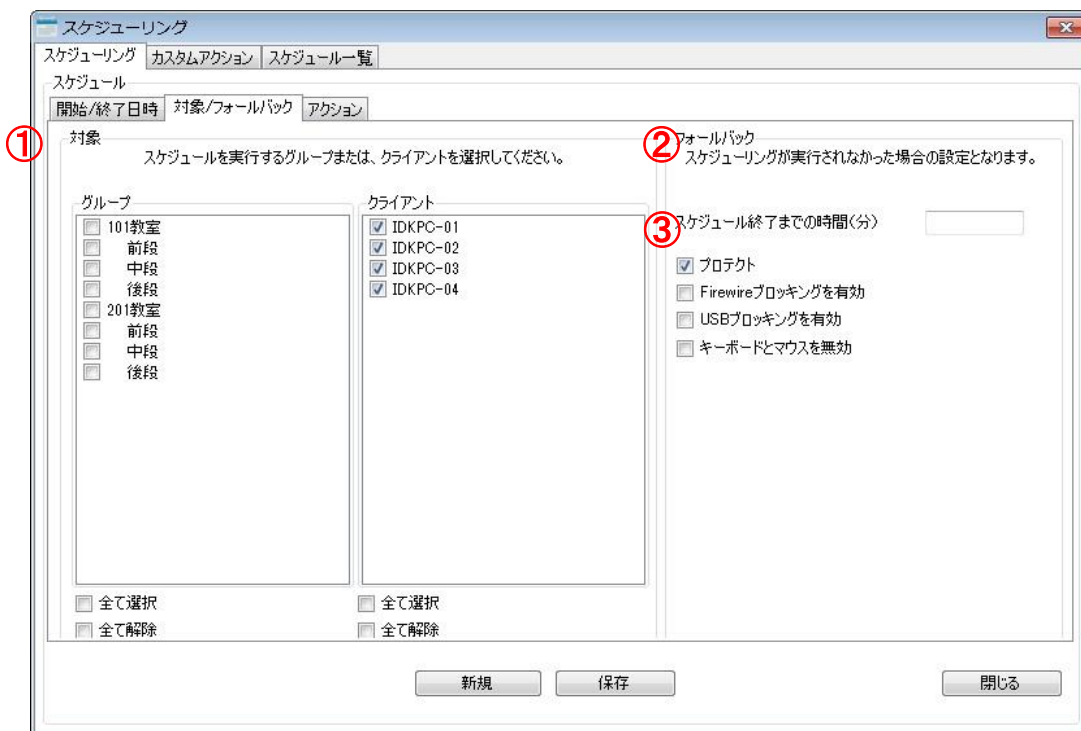
③ 期限

スケジュールの開始日と終了日を指定します。

④ 名前

スケジュール名を指定します。補足事項がある場合は説明欄に記載します。

(3) 対象/フォールバックタブにて、対象のクライアント等の設定を行います。



① 対象

グループ : 対象となるグループ

クライアント : 対象となるクライアント

② フォールバック

スケジュール開始後、何らかの理由(停電など)により、予定時間内(スケジュール終了までの時間)にスケジュールが完了しなかった場合、クライアント側に反映される設定となります。

	チェック有り	チェック無し
プロテクト	プロテクトモード	プロテクト解除モード
Firewire ブロックングを有効	ブロック ON	ブロック OFF
USB ブロックングを有効	ブロック ON	ブロック OFF
キーボード・マウスを無効	ブロック ON	ブロック OFF

### ③ スケジュール終了までの時間

スケジュール終了までの時間(分単位)を設定します。

本設定は、スケジュールの開始から終了までの目安時間となります。1 つの動作につき、5 分が既定値として必要になります。今回の設定では、下記のようになります。

[スケジュール 01]

起動(Wake On LAN): 5 分

プロテクト解除: 5 分

再起動: 5 分

5+5+5=15 分

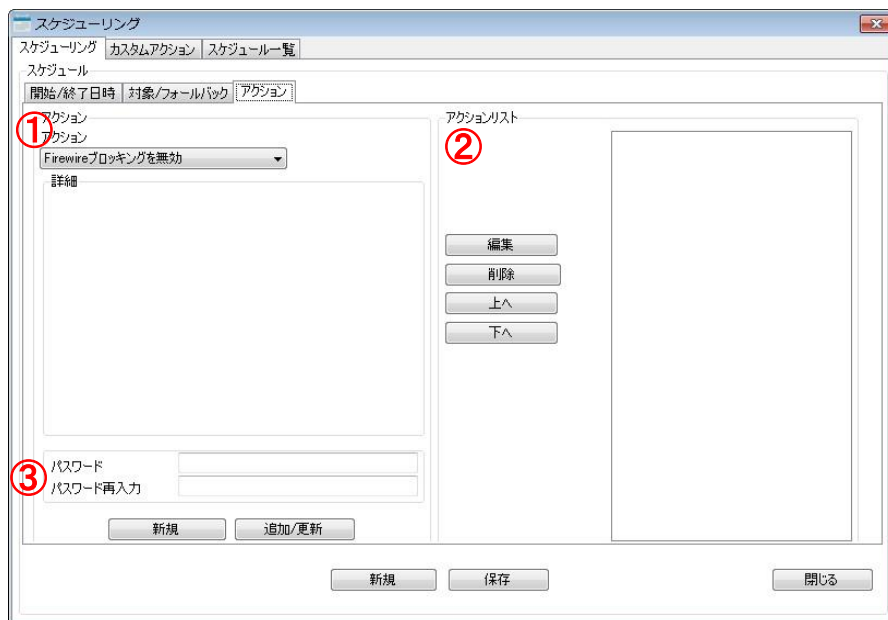
[スケジュール 02]

プロテクト: 5 分

シャットダウン: 5 分

5+ 5 = 10 分

### (4) Action タブにて、スケジュールを行う動作の設定を行います。



#### ① アクション

実行したい動作を選択後、[追加/更新] をクリックすることで、画面右側のアクションリストにアクションが追加されます。一連の動作を追加してください。

プルダウンリストから、操作を選択します。各項目の機能は以下の通りです。

項目	機能
Firewire ブロッキングを有効	Firewire のロック
キーボードとマウスを無効	キーボードとマウスのロック
USB ブロックを有効	USB デバイスのロック
遅延	遅延動作(1分～300分)
遅延再起動	遅延再起動(1分～15分)
遅延シャットダウン	遅延シャットダウン(1分～15分)
プロテクトを解除	プロテクト解除モード
プロテクト	プロテクトモード
ファイル転送	ファイル転送の実行
再起動	再起動の実行
リモート実行	クライアントのリモート実行
シャットダウン	シャットダウンの実行
Firewire ブロッキングを無効	Firewire のロック解除
キーボードとマウスを有効	キーボードとマウスのロック解除
USB ブロッキングを無効	USB デバイスのロック解除
起動(Wake On LAN)	Wake On LAN を使用したクライアントのリモート電源 ON
Windows Update(推奨アクション)	Windows Update を実行します。実行中はキーボードとマウスのロック、背景画面の変更も同時に行います。
Windows Update(実行のみ)	Windows Update の動作のみを実行します。実行中のキーボードとマウスのロック、背景画面の変更は行いません。
メッセージ送信	クライアントにメッセージを表示します。

\* Update Client Software、ウイルススキャン実行は未対応です。ご使用にならない様ご注意ください。

② アクションリスト

アクションにて追加した動作が登録されます。動作の編集を行う場合は、該当の動作を選択した後 [編集] をクリックしてください。

動作を削除する場合は、該当の動作を選択した後 [削除] をクリックしてください。

順番を変更する場合は、該当の動作を選択した後、画面中央の [上へ] または [下へ] を選択して並び替えを行ってください。

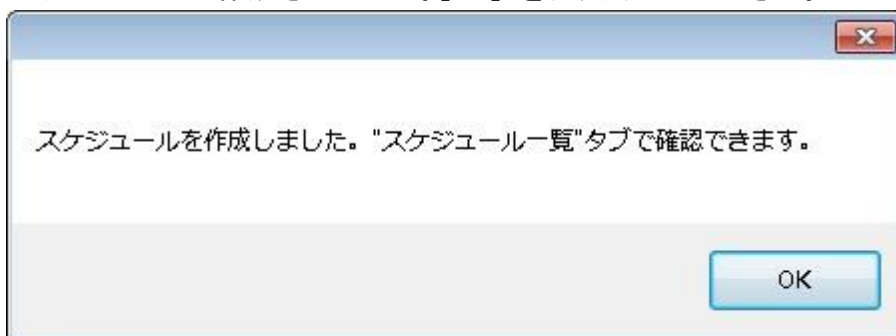
③ パスワード

クライアント側に設定したパスワードを入力します。

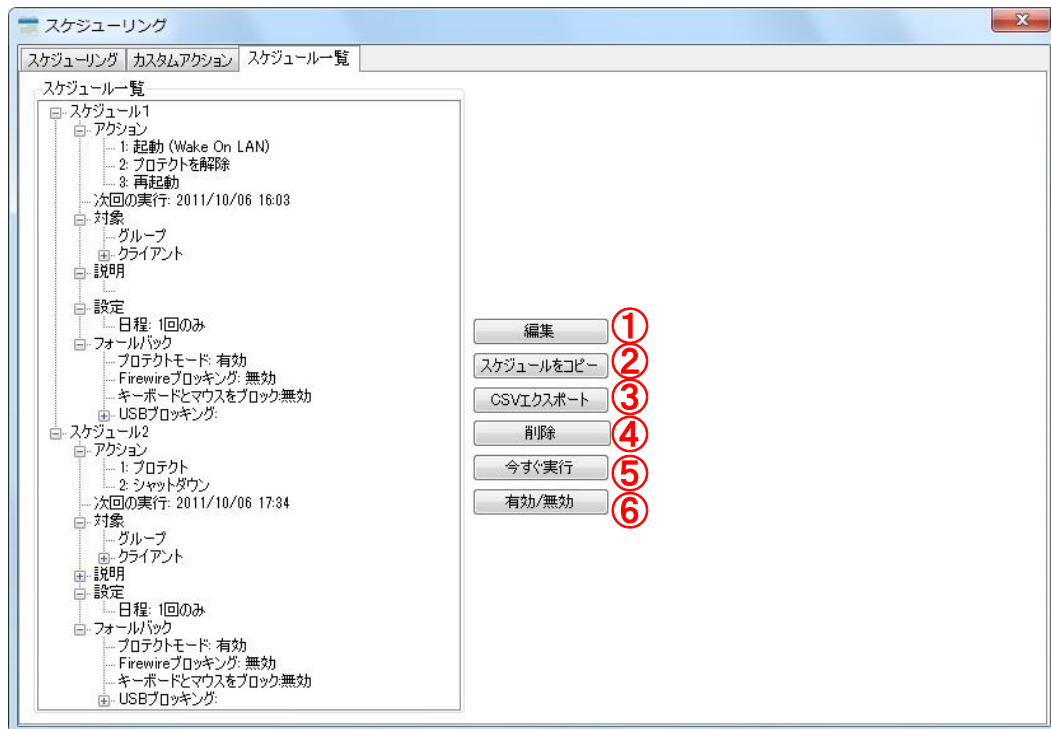
**\*クライアント側に設定したパスワードと、異なるパスワードを入力していた場合でも、スケジュールは実施されてしまいます。パスワードを必要とする Action にて、スケジュールが失敗となり、フォールバックで設定した内容が反映されます。パスワードは、くれぐれもお間違いの無いようご注意ください。**

**\*すべての設定が完了後に、画面下の [保存] をクリックします。**

(5) スケジュールが作成されました。[OK] をクリックしてください。



(6) [スケジュール一覧] タブを選択することで、作成したスケジュールの内容を確認できます。



① 編集

スケジュールを編集します。

該当のスケジュールを選択後、[Load Schedule] をクリックします。編集が完了しましたら、[Save Schedule] をクリックします。

② スケジュールをコピー

スケジュールをコピーします。

コピーしたスケジュールは [編集] にて設定内容を更新してください。

③ CSV エクスポート

スケジュールを CSV 形式にエクスポートします。

該当のスケジュールを選択後 [CSV エクスポート] をクリックします。保存ダイアログにて、保存先とファイル名を指定し保存してください。

④ 削除

スケジュールを削除します。

該当のスケジュールを選択後 [削除] をクリックします。

\* 実行中のスケジュールは削除できません。



- ⑤ 今すぐ実行  
スケジュールを実行します。スケジュールの動作確認の際に使用します。  
この機能を使用したスケジュール実行後も、指定した時間に再度スケジュールは実行されます。
  
- ⑥ 有効／無効  
設定したスケジュールの有効／無効を設定できます。

以上で、スケジュールの作成は完了です。

スケジュール 01 を作成後、同様の手順にてスケジュール 02 を作成します。

## 1-2 スケジュールのカスタマイズ

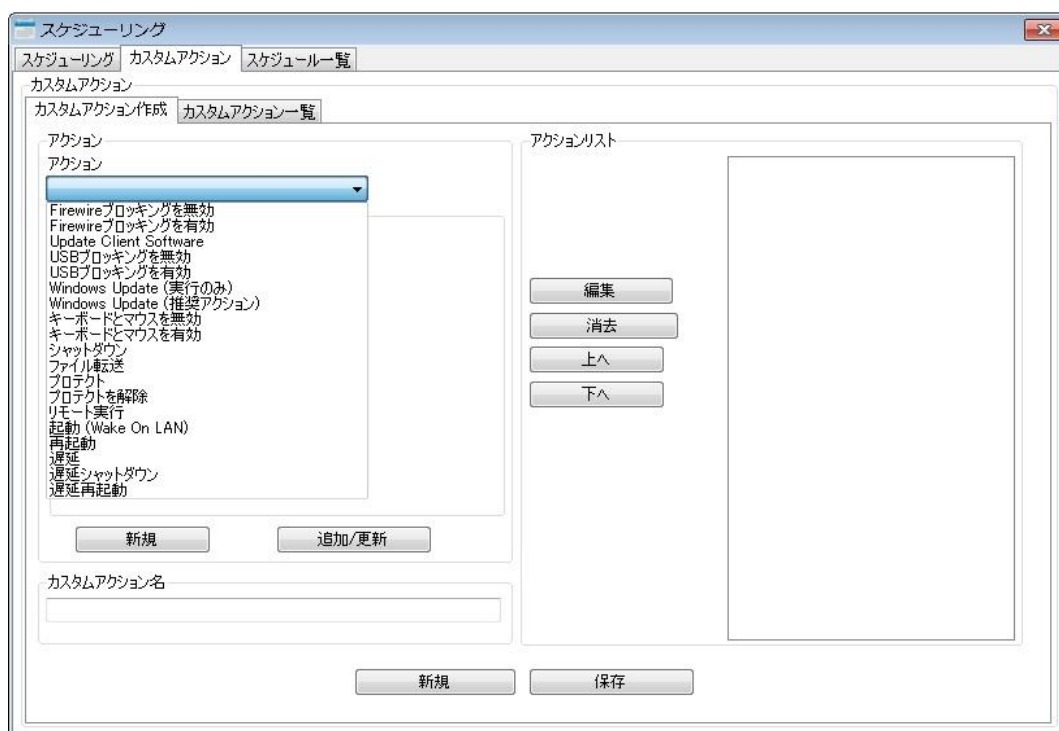
[カスタムアクション] にて、一連の動作を予め登録しておくことが可能です。

ここで登録したカスタムアクション は [スケジューリング] の [アクション] にて、使用することができます。

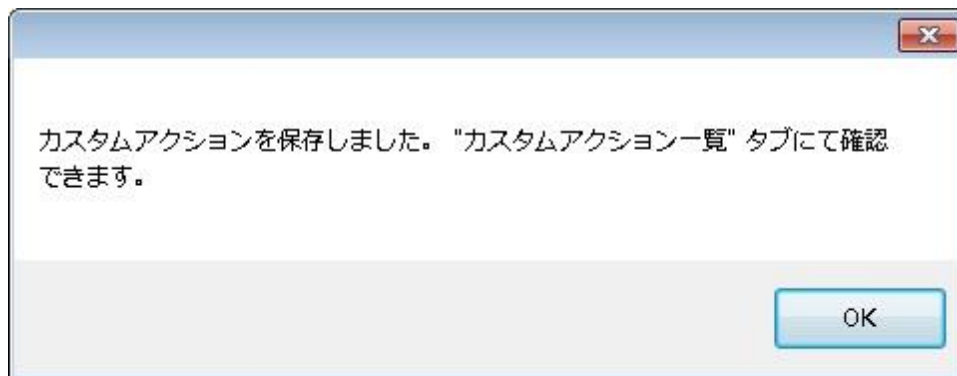
(1) メニューバーの [スケジューリング] → [スケジューリング] をクリックします。

(2) 次のダイアログにて [カスタムアクション] タブをクリックします。以下の画面が表示されます。

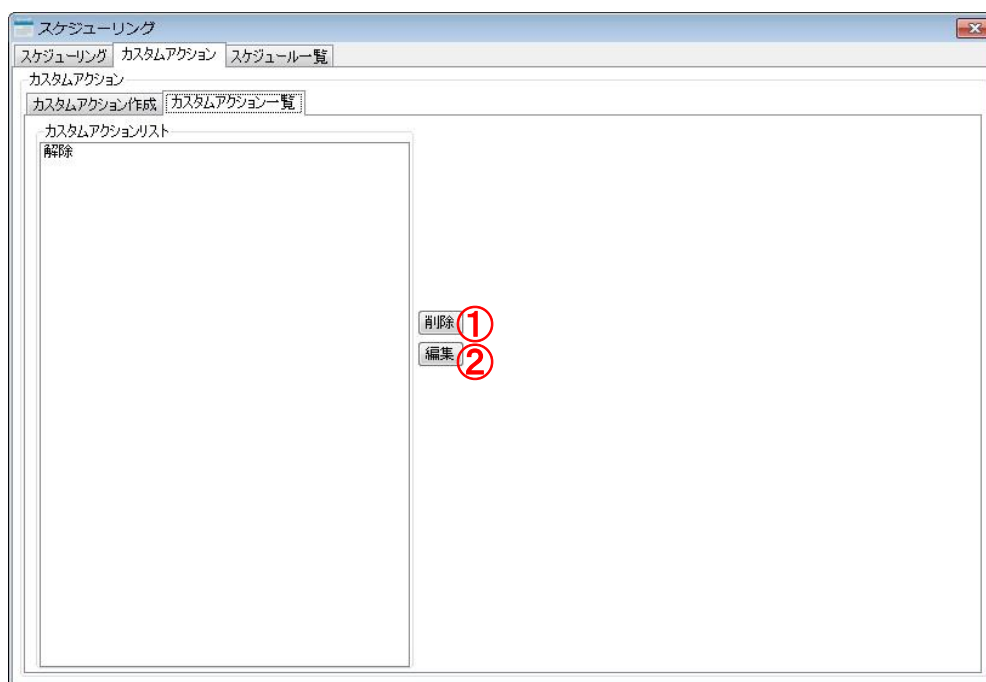
スケジュール作成と同じ作業を行い、一連の動作を追加します。画面下の[カスタムアクション名] へ動作の名前を入力し [保存] をクリックします。



(3) カスタムアクションが作成されました。[OK] をクリックしてください。



[カスタムアクション一覧] タブをクリックすることで、作成したスケジュールを確認できます。



① 削除

該当のスケジュールを選択後、[削除] をクリックします。作成したスケジュールが削除されます。

② 編集

該当のスケジュールを選択後、[編集] をクリックします。スケジュールを編集することができます。

# ライセンス認証の解除

インターネットに接続した状態でスマートコントロールのアンインストールを行うことで、ライセンスの認証状態が解除されます。

ライセンス認証の解除後は別の端末でドライブシールドのライセンスを認証いただくことが可能です。

端末の故障やインターネットへ接続した状態でアンインストールができない場合は保守サポート期間内にサポート窓口へご連絡ください。

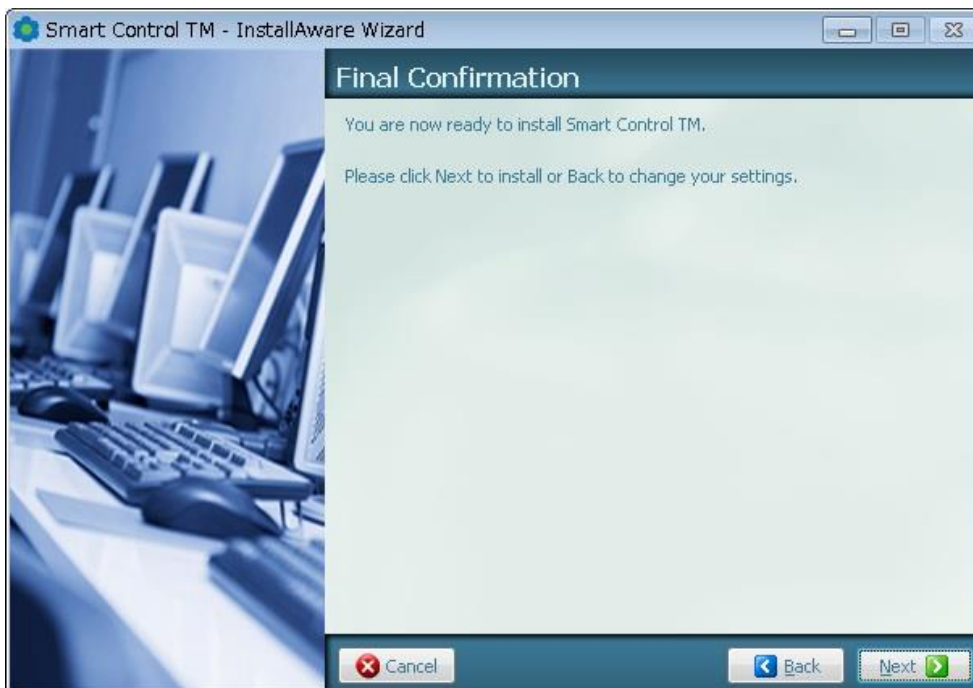
## アンインストール

### 1 アンインストール方法

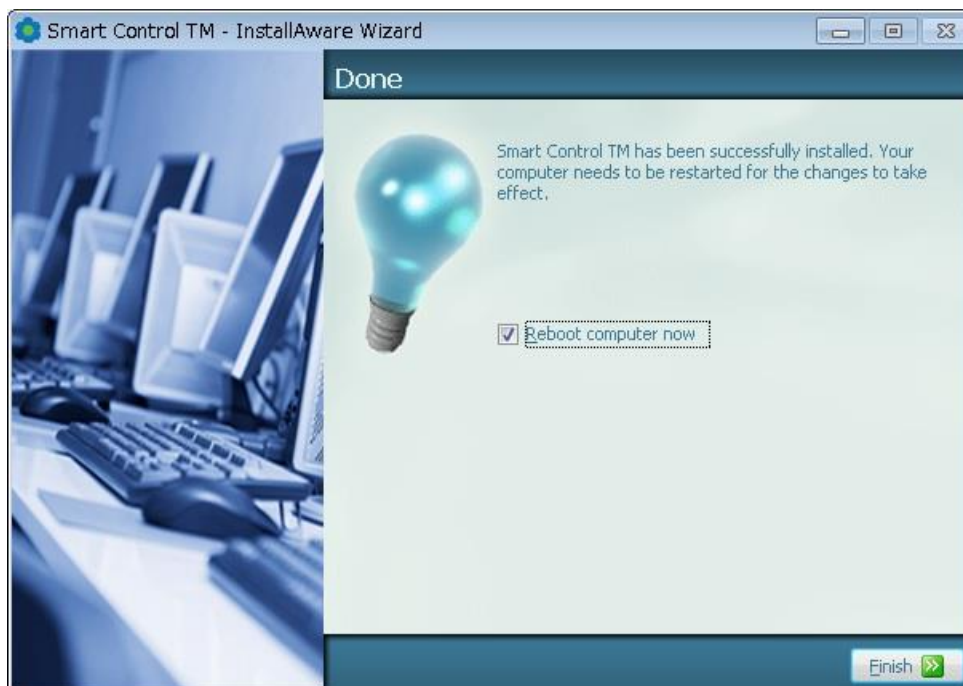
- (1) Administrator 権限でログオンし、[コントロールパネル] の [プログラムと機能] をクリックします。
- (2) Smart Control TM を選択し、[アンインストール] をクリックします。
- (3) 次の画面で [Remove] にチェックを入れ、[Next] をクリックします。



[Next] をクリックします。



(4) [Reboot computer now] にチェックを入れ、[Finish] をクリックすると、再起動が始まります。以上でアンインストールが完了します。



# その他設定事項

## 1 仮想化ソフトをご利用の場合

VMWare 等の仮想化ソフトを使用しているクライアントパソコンが複数ある場合、スマートコントロールのリスト上のクライアントを正しく表示できない場合があります。これは、複数のクライアントパソコンに同じ MAC アドレスの仮想ネットワークアダプターが存在していることにより起こります。

その場合、下記設定を行う事でリストを修復できます。

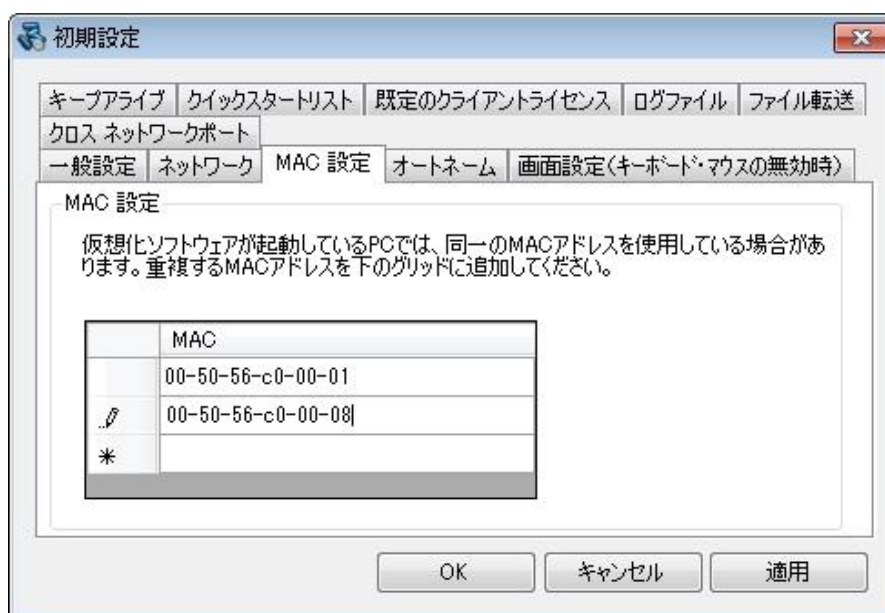
- ① スマートコントロールのメニューより、[ファイル] - [設定] をクリックします。
- ② [MAC 設定] のタブをクリックします。画面下の入力欄に、仮想アダプタの各 MAC アドレスをすべて登録し、[OK] をクリックします。
- ③ スマートコントロールのパソコンを再起動します。

\* すべてのクライアントのリストが正常に表示されたかをご確認ください。

VMware をデフォルトの状態で使用している場合は、以下の 2 つの MAC アドレスを登録してください。

00-50-56-C0-00-01

00-50-56-C0-00-08



# お問い合わせ先

製品のお問い合わせ先につきましては、製品パッケージ内に同封されている「保守サービス証書」をご確認いただくか、ご購入いただいた販売店様へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

---

株式会社 アルバニクス  
〒242-0021 神奈川県大和市中心 7-9-1

※ 記載されている社名、商品名は各社の商標または登録商標です

---

